



今号の法語

仏法は煩惱から人間を解放

するのでなしに、

分別から人間を解放する

安田理深



「仏教とはどのような教えですか」と聞かれることがあります。そんな時に長々と説明しても分かりにくいので、私は上記の「分別から人間を解放する教えです」と答えています。人生には人間関係や経済的な問題、健康問題など様々な悩みがあるかと思えます。これらは「因縁」のうちの「縁」です。あくまでも原因の「因」があつて様々な「縁」に触れることによつて悩み苦しむこととなります。あくまでも「因」に対するアプローチが大切なのです。その「因」が煩惱です。しかしご存じの通り煩惱を無くす事は人間として現実的な事ではありません。大事な事は私たちが現実の生活の中で本当は何が原因で悩み苦しんでいるのかを知ることです。それが様々なものを見る眼である「分別」です。「分別」とは自分中心の思い込みの心とも言えるでしょう。本来なら当たり前である現象を、思いに叶うか叶わないかというこの「分別」によつてプラスにもマイナスにもしています。これが前提にあるので様々な縁に触れることによつて、物事をありのままに見る事が出来ずに「自分で自分を」苦しめていることとなります。「縁」によつて苦しめられるというより、自分自身によつて苦しめられている事になります。この自分自身で作つた世界を「地獄」と言います。解放されていくには根拠のない分別で悩み苦しんでいる事を「言葉」によつて常に教えられるしかありません。それがお経や正信偈などのお言葉です。

誌上法話 〈正月飾り〉



本年も宜しくお願い致します。お正月と言えほどの家庭でもしめ飾りや門松^{かじまつ}などが玄関に飾られているものをよく見ます。これらを見るといよいよ正月が来たのだなと実感させられる日本の風物詩のような気がします。しかしお寺にはこれらのお飾りが何故ありません。正確に言えば他の宗派に關してはよくわかりませんが、殊^{いっさい}に私たちの浄土真宗のお寺においては門松^{かじまつ}やしめ飾りのようなものは存在しません。それはこれらの飾りの持つ意味と、教義との間に大きな違いがあるからです。まずは門松^{かじまつ}をインターネットの検索サイトで調べると、「木の梢^{こすえ}に神が宿ると考えられていたことから、門松^{かじまつ}は年神^{としがみ}を家に迎えるための依り代^{よしろ}という意味合いがある」と書いてあります。そしてしめ飾りも「仏教（特に密教）においても結界の意味で使用することがある」とあります。つまり新たな年を迎えるにあたっての神様への目印であり、災^{わざわい}いを家に入れない為の結界としての意味があります。これからわかるように神事としての意味合いが強く、本来浄土真宗のお寺にはあまり馴染みがありません。更に言えば日本人特有の宗教観である災^{わざわい}いを避けて、福を招くという意味合いが

強く、これが浄土真宗の教義とは大きく隔たりのある箇所です。このように日本の宗教観によく見られる「除災招福^{じよさいしやうふく}」の考えが浄土真宗にはないのです。寧ろ「除災招福^{じよさいしやうふく}」の考え方そのものが苦しみ・迷いを生み出していると教えて下さっています。これは自分の思いに叶^{かな}うものはプラスであり、自分の思いに叶^{かな}わない事はマイナスであると価値付けし、その狭い価値付けの世界の中で一喜一憂^{いつきいちゆう}する生き方を生み出します。その多くは他人の境遇と比較して落ち込み、思い描いた理想に対する現実に絶望するものです。だけでも世界はそんな狭いものではないはずですが、私たちの人生を自分自身の偏った価値観（思い）で縛るものではないはずで、私たちのプラス・マイナスの価値観自体を問い直し、どんな境遇にあってもそこに意味を見いだしながら引き受けて力強く歩んでいく道が浄土真宗の教えです。親鸞聖人は『歎異抄^{たんいしやう}』で「念仏者は無碍^{むげ}の一道なり」とおっしゃっています。逆境にも負けずに私の為の大切なご縁の一つとして歩んでいけるのです。そうなのでわざわざ私の価値付けの中で災^{わざわい}いを遠ざけて、福を招き入れる必要がないのです。今年もたくさんのご縁があるでしょう。その一つ一つを意味のあるものとして大切にしていきたいものです。



餅つき大会



三本柿の干し柿作り



御正忌での法話 (若坊守)

お寺の風景



境内で雪遊びする子ども達



毎日の落ち葉掃除



御正忌でのいとこ煮

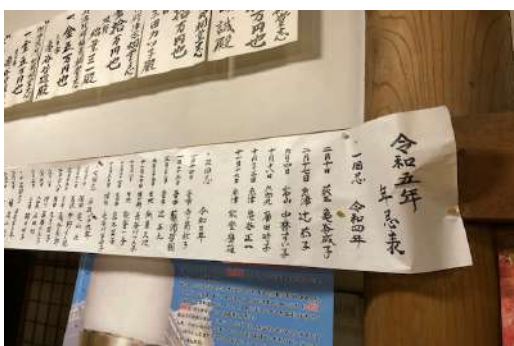


法要名・亡くなられた年

1周忌	令和5年(2023)
3回忌	令和4年(2022)
7回忌	平成30年(2018)
13回忌	平成24年(2012)
17回忌	平成20年(2008)
23回忌	平成14年(2002)
27回忌	平成10年(1998)
33回忌	平成4年(1992)
37回忌	昭和63年(1988)
43回忌	昭和57年(1982)
50回忌	昭和50年(1975)

法事は亡き人を偲び、同時に亡き人からの大切な願いを確かめながら自分自身を見つめていく仏縁の場です。今年の名前を例年通り本堂に掲載していますので、ご確認ください。またご自宅のお内仏(仏壇)内の脇掛けの法名軸にも御命日が記載されています。ご確認され該当される方、法要を行われる方はご連絡ください。

年忌表



坊守日記



本年もどうぞよろしくお願ひします。今年は新年から地震を体験するなど、いつものお正月とはまったく違った光景でした。改めて自分の防災意識のなさを痛感すると同時に被災された方の映像をテレビで見ると、とても悲しい気持ちになりました。さて、昨年を振り返ってみると十二月にお寺で近所の子ども達を誘って餅つきを行いました。なかなか体験出来る事ではないので、子ども達は大いに喜んでいました。また十一月には三本柿の干し柿作りをしました。娘も来年は中学生になるので、自分なりの楽しみや友達との交友関係も広がり、あまり休みの日に一緒に干し柿を作ったり、餅つきに参加したりということをしたがらない年頃になりました。親として寂しい気持ちはありますが、成長していく姿も嬉しい気持ちになります。次回のこの「願生」では娘の小学校の卒業式の写真を皆さんにお見せできたらと思います。



編集後記



新年早々に地震に見舞われるなど、皆さんも大変なお正月を過ごされたことかと思ひます。被害の方はいかがでしたでしょうか。私達も慌てて高台に避難しましたが、突然の事でしたので非常に困惑しました。幸いにお寺の方は、これといった被害はありませんでした。しかし親戚寺院が石川県の能登島にあり、大きな被害に遭いました。なかなか連絡がとれませんでしたが、数日後に電話がつながり、現在も地域の方々々と協力しながら生活しているとのことでした。連日の被災地の報道を見ると本当に胸が痛くなります。私達はこれまで心のどこかで、富山県は災害とはあまり関係がないと思っていたのではないのでしょうか。私達ちもこれを教訓として日ごろからの備蓄や避難場所の確認など、より一層の有事での備えが必要だと感じました。

派聖跡の寺
谷聖人の寺
大鸞聖人の寺
宗親三本柿

辻徳法寺

〒938-0031

富山県黒部市三日市3214

TEL・FAX(0765) 52-0791

ホームページアドレス

<https://tokuhoji.net>

[@temple_english_tokuhoji](https://www.instagram.com/temple_english_tokuhoji)



次回の定例法座は4月10日(水)を予定しています。

1、2、3月はお休みいたします。